

## 原発公害を繰り返さないためのお願い

関礼子

### 1. 「ノーモア」の誓い

原爆死没者慰霊碑、「安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから」

厚生労働省敷地内にある薬害根絶誓いの碑、「命の尊さを心に刻み サリドマイド、スモン、HIV 感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう」

水俣病慰霊の碑、「不知火の海に在るすべての御霊よ 二度とこの悲劇は繰返しません 安らかにお眠りください」

新潟水俣病の歴史と教訓を伝える碑の解説文、「このような悲惨な公害を繰り返してはならない」

福島原発事故は、繰り返してはならない出来事を、またひとつ増やしました。

\*

「ノーモア」を訴えてきたヒロシマ、ナガサキ、そしてビキニ。

核の平和利用を認めてきた日本原水爆被害者団体協議会は、福島原発事故で「ふたたび被ばく者がつくられた」と憤り、核の平和利用を認めない方針に転換し、「これまで長年にわたってとられた政府と電力会社の欺瞞と怠慢、国民の声を聞かない傲慢な態度に厳しく抗議し、放射能放出拡散による損害を全面的に賠償するよう求める」と決議しました。

ビキニ環礁の水爆実験で被ばくした第五福竜丸の乗組員、故・大石又七さんは30年近い沈黙のあとに、核のない社会、放射能に脅かされない未来のために、第五福竜丸事件を語り始めました。大石さんは、生前、福島原発事故について、「当事者じゃないからわからないけど、…我々と同じようなことが出てくるだろうな」と想いを寄せました。

「ノーモア・ミナマタ」を訴えてきた水俣市の人びとも、福島の人びとを案じてきました。事故後間もなく、「福島の子は帰れ」など、根拠のない差別や偏見がありました。当時の水俣市長、宮本勝彬は、「放射能は確かに怖いものです。しかし、怖いものだが、事実に基づかない偏見差別や非難中傷は、人としてもっと怖く悲しい行動です。水俣病のような悲しい経験を繰り返してはなりません」とメッセージを發しました。

核の脅威と汚染、有害物質による環境汚染と健康破壊、異なる「ノーモア」が、福島原発事故被害に自らの苦しい経験を重ね、寄り添ってきました。

## 2. ノーモア原発公害市民連絡会

私たち「ノーモア原発公害市民連絡会」は、原発公害、核・原子力災害の脅威と不安にさらされない社会をめざして、2023年11月17日に結成されました。

学者、弁護士、ジャーナリスト、そして何よりも「市民」として、私たちは福島原発事故に「国の責任なし」とした、2022年6月17日の最高裁判決の過ちと危うさを危惧しています。

この判決は、6.17判決とも呼ばれます。6.17判決は衝撃的でした。国が規制権限を行使しても、福島原発事故は避けられなかった。だから、「国に責任はない」というのです。規制してもしなくても事故は避けられない。だったら、原発は動かしてはなりません。

しかし、判決でみそぎは済んだとばかり、国は、矢継ぎ早の「原発推進策」を打ち出してきました。

脱炭素社会に向けて、GX（グリーン・トランスフォーメーション）をはかるといふGX法案が、あれよあれよという間に国会を通過しました。60年を超えて原発の稼働が可能となる、新型原子炉の建設を進めるなど、原発再帰に舵が切られました。

関係者の同意なしにアルプス処理汚染水の排出はしないはずが、漁業者いわく「約束は破られていないが果たされていない」という、なんともあいまいな状況のなか、海洋放出が開始されました。

最高裁のお墨付きを得て、原発事故の責任を免れた国は、勢いにのっています。

## 3. 被害者は置き去りですか？

「どうして再稼働なのですか。

ふるさとに帰れない人は置き去りですか。

私たちのことをどう思っていますか。

そんな国でいいのですか。」

大部分が帰還困難区域のままの浪江町津島の方からの問い合わせです。

まだ除染されていない帰還困難区域があります。避難し続けている人がいます。原発事故で傷ついたふるさとの再生も道なかばで、果たされていません。健康不安を現実に抱えている人もいます。

しかし、被害の苦しみをよそに、最高裁で「責任なし」とされた国の原発推進策はどんどんと進んでいます。

#### 4. ノーモア原発公害！アピール

「ノーモア原発公害市民連絡会」は、この動きに明確に「ノー」を示し、「ノーモア原発公害！アピール」を発出しました。

私たちは、きわめて深刻で多種多様な形での人権侵害と環境破壊をもたらしている原発公害を再び引き起こさせないために、とくに最高裁に対し、過酷事故をもたらした国の責任を否定する不当判決を根本的に是正することを強く求めます。

また、日本政府に対しては、福島原発事故に伴う深刻な人権侵害と環境破壊がなお続いているという実態を踏まえ、すべての被害の全面救済と原状回復を最優先した取り組みを進めていくことを強く求めます。

さらに、新たな原発公害を拡大させる、「ALPS処理汚染水」の海洋放出を中止し代替案を検討すること、および、老朽原発の再稼働を即時に停止することを強く求めます。いま稼働している原発のすべての停止を求めます。

\*

福島原発事故で、原発の安全神話は完全に瓦解しました。加えて、私たちは、ここ数年の間、原発が持つ新たな危うさを目の当たりにしてきました。

2022年の3月。ウクライナに侵攻したロシアはザポリージャ原発を攻撃、掌握しました。有事の際に、原発は大きなリスクとなることが証明されました。

北朝鮮からのミサイルに、しばしばJアラートが発令され緊張が高まるなか、日本の原発が攻撃対象にならないとは限りません。

今年1月1日の能登半島地震では、震源地付近に「珠洲原発」の建設予定地がありました。粘り強く拒んで計画を凍結させた珠洲市の方々が、新たな災禍を未然に防いでくれました。揺れが大きかった志賀町の志賀原発は、稼働していなかったから大事に至らなかったと、胸をなでおろした方々も少なくありません。

しかし、災害多発期に入った日本で、こうした幸運が続くとは限らないのです。

## 5. 世論を波だて、裁判官の背中を押す風に

原発には、存在そのものが危機を招き寄せるという側面があります。原発回帰政策には慎重な議論、見直しや方向転換が必要です。

どのようにして転換させることができるのか？

私たちは、いま、各地で国を被告として争っている裁判が、高裁判決を経て、最高裁に次々と上告されていく状況に注目しています。6.17 最高裁判決を塗り替えることができるのは、最高裁だけです。

どうしたら6.17 最高裁判決を塗り替えることができるのか？

「法廷は天候には左右されないが、世論の空気には左右される」。

アメリカの連邦最高裁判事、ギンズバーグの映画『ビリーブ——未来への大逆転』で繰り返し語られた言葉です。

私たちは、6.17 判決のなかでただ一人、まっとうな反対意見を書いた三浦裁判官のような、法の正義を貫く裁判官が、最高裁には何人もいると信じます。みなさんとともに世論の空気を変え、そのような裁判官の背中を支え、後押しする風になりたいと考えています。

原発反対運動には、チェルノブイリ原発事故後、都市の主婦層を中心とした「反原発ニューウェーブ」のうねりがありました。「ノーモア原発公害市民連絡会」は、福島原発事故に憤る人々、被害を受けた人々とともに、「反原発ニューウェーブ」に続く第三の波をつくり、「国の責任なし」という最高裁判決の誤りを正したいと思います。

\*

みなさまにお願いです。サポーターになって、賛助団体になって、この運動に加わってください。いま、「ノーモア原発公害市民連絡会」は、最高裁に私たちの声を届ける「要請書」を準備しています。この要請書への賛同やネット署名を通して、みなさんも「ノーモア原発公害」の声を波だて、最高裁判決を変える時代の風になってください。